

Unit	回次	テーマ	内容
1	1回目 事実判断 と 気分判断	時制: 現在・過去・未来	do・be・have は「事実を表す判断詞」
2		will, shall, can, may : 主観的判断を表す	英語に「未来形は無い」出現確率の主観的判断: 非事実
3		will のいろいろな使い方	will は命令にもなり、敬語にもなる
4		can, may, must, shall の使い方	随意・不随意の内容により、いろいろな意味になる
5	2回目 文の操作 疑問文と その応答	would, should, could, might	気分判断詞の過去形: 「表の意味: 推測」と「裏の意味: 謙譲」
6		その他の意味を加える判断語	疑問詞の倒置と判断語の操作 判断語の組み合わせ
7		文のいろいろな操作のワンパターン	判断詞(V1)の主語(S)の操作: 疑問文とその応答
8		疑問文(疑問詞を含む)のワンパターン	主語(S)を聞くか、目的語(O)を聞くか
9	3回目 前置詞の 使い方	いろいろな判断語の組み合わせ	判断語は、いろいろな品詞が組み合わせたり長くなる
10		前置詞句の使い方: S is of □□.	with □□, from □□, for □□, at □□
11		前置詞句のワンパターンな使い方	主語(S)の叙述か、目的語(O)の叙述か、位置で決まる
12		S-「話し手の判断(V)」- that-svop	that節の前の言葉は「話し手の気持ちや判断、考え」を表し、品詞に関係なく「同じ働き」
13	4回目 that節 wh-節 ネクサス	長がい判断語は「丁寧表現」	いろいろな言葉が組み合わされて1行以上に渡る判断語敬語表現の規則性
14		従属接続詞(when, if, though, because)	二つの文が続く言い方: いろいろな言葉が使われる。因果関係、論理関係の表現の理解。
15		名詞の説明語: ネクサスと関係詞	あらゆる種類の言葉が「名詞の説明語」になる。前置修飾と後置修飾の意味・働きの違い
16		疑問詞の位置による働きの変化	8W1H(疑問詞)も、S-V-O-Pの位置で言葉の働きが決まる。英語で唯一品詞が決まっている場所は「判断詞(V1)」の部分
17	5回目 名詞の説明語 ネクサスと 関係詞	関係代名詞・副詞の使い方 ①	SVOのSの説明語(M)と、Oの叙述語(P)は同じ続き方
18		関係代名詞・副詞の使い方 ②	with whom, in which 前置詞の付いた関係代名詞
19		「時制の一致」と「間接話法と直接話法」	複文中の「複数の判断語の時制」は、各々独立している。「時制の一致」という規則性は英語には無い。
20		仮定法 現在: 原形の動詞の判断語	英語の「動詞の原形」は、「未然形」。事実でもなければ、必ずなるとも決まっていない事柄に対しての判断
21	6回目 文の操作 仮定法 修辞法	仮定法 過去	英語の「過去形」は、「完了形」との関係で「今は違う」という意味を表すことがある。
22		省略: 主語(S)と判断詞(V1)の操作	判断詞(V1)は、V2-O-[P]を代表する「代判断詞」do・be・have、will, shall, can, may, mustを同じように使う。
23		強調: S-V-O-Pの語順にする	判断語(V)の強調は、判断詞(V1)の有無で行い、他の要素の強調は、判断語(V)部分で使う: It's □□thatの強調文
24		倒置: S-V-O-Pの語順にする	Sの場所には「あらゆる種類の言葉」を使う。Wh- 疑問文・副詞の強調倒置、引用文の倒置、O-[be]-Pの倒置。SVOPの語順から考えると「倒置」と呼ぶべきではなく「普通の語順」と考えられる。
25	7回目 文頭句と 分詞構文	文頭句(Header): V2-O-P, SVOP	S-V1を抜いた言葉のまとまりを文頭で使う: 品詞制限はない。
26		V2-O-[P]の前後をコンマで括った挿入句	V2-O-Pを、S-V-O-Pの各要素の間で使う。文頭句と位置が異なるだけ。
27		分詞構文と接続詞を使った文	V2-O-[P]が文頭や文尾で使われる: C-s-v1-v2-o[-p]から、C-s-v1を抜いただけ。
28		分詞構文、独立不定詞＝文頭句: Header	V2-O-[P]なので、品詞に関係なく同じ使い方をしているだけ